

# 算数科の楽しさを味わう授業改善推進事業

令和6年5月1日

## I 現状

数年の各種学力テスト等から、本町児童は次のような状況にあると言える。

- ・(学力面) 算数学力が安定しない。あるいは伸びていかない。
- ・(情意面) 算数を学習する必要性は理解していても、算数を楽しむという状況ではない。

## II 要因

町内児童の学力・情意の現状から、要因を次のように考えた。

- ・算数の勉強に対して受け身になっている。「自分是可以する」という自信につながらない。
- ・系統性の強い教科でありながら、前時や前に学習したことを本時の問題解決に生かせるように育っていない。
- ・計算に時間がかかり過ぎたり、ミスが多かったりする。

上記のような児童の学びの姿は、日々行われている授業の影響が大きいと考える。「できればいい」「わかればよい」で留まる教師の指導観によると考える。

## III 本事業において目指す姿

- ①町内の小学校(4校)の児童が、算数科への学ぶ意欲を持ち、数学的な見方・考え方を働かせ、統合的・発展的に考えながら問題解決に取り組む姿。
- ②町内の小学校(4校)の全ての教諭(若手からベテランまで)が、上記の目指す児童像を共有し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を図り、勇気をもって授業改善に取り組む。

## IV 授業課題

児童の学びの力を育てる授業

「できるように」「わかるように」という指導観に、「自ら学びを進める子供たちの学びの姿」を育てることを加える。

## V 取組みの方向性

児童の学びの力を育てる授業改善



「算数科の楽しさを味わう授業づくり」を追究する。

「楽しさ」とは、アイデア勝負の「一時的興味・関心をひく楽しさ」ではなく、「算数が本来持っている楽しさ」ととらえる。それは、「既習事項や様々な考え方を使得、新しい知識を創り出したり、児童自ら学びを進めたりすることである」と考える。その実現のために、「算数科の特質をいかした授業づくり」と、「多様な学習形態を実践する」ことが必要であると考え。そして、生涯にわたって能動的に学び続ける人を育てることにつながることを願う。

## VI 評価指標

指 標	達成指標	検証方法(時期)
世羅町独自に実施する学力調査(東京書籍「標準学力調査」)における、町内小学校各学年の算数の平均値を向上させる。	全ての学年の平均値が、全国平均値を上回ることを目指す。	令和6年度標準学力調査(1月実施)
世羅町教育委員会を中心に作成する児童質問紙調査において、「算数の勉強は好きです」「算数の授業の内容はよく分かります」等の項目で「当てはまる」と回答した児童の割合を向上させる。	各項目に「当てはまる」と回答した児童の割合を、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における広島県平均と比較し+3ポイント以上を目指す。	町内小学校児童への独自アンケート調査(各学期1回)
「個別最適な学び」として「指導の個性化」と「学習の個性化」を意識した個別学習に取り組む。	年間を通して、1人1単元以上の個別学習を位置づけた単元開発に取り組む。	作成した指導案等

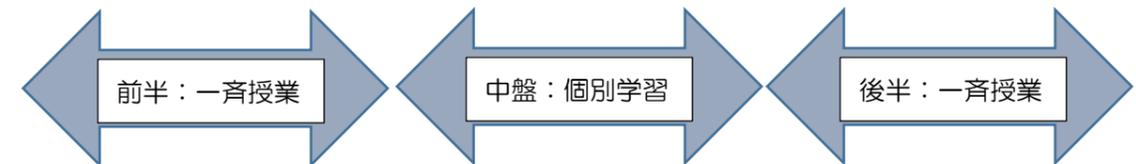
## VII 算数科の特質をいかした授業づくり

学習内容の系統性が強い算数は、基礎的・基本的な知識・技能が大切であり、「学び方」を学ばせるのに適している教科である。

そこで、教科の特質である「数学的な見方・考え方を働かせる」こと、「統合的・発展的に考える」こと、算数の「学び方」を学ぶこと、さらにICT機器の活用を進めることにより、児童自らが新しい知識を発見する力を養い、学びを自ら進めていく力を育てていくことができる。

## VIII 多様な学習形態

### (1) 個別学習の授業単元イメージ



### (2) 自由進度学習

一つの単元内で児童が学習の進度を決め、自己調整しながら学ぶ学習形態。教師が計画する学習内容のフレームの中で、子供一人一人が課題を自己決定し、計画を立てて、自分の学習速度で進め、その過程で友達と相互に作用しながら学びを深めていく。

この学習の意義は、次の通りと言われている。

- ・子供たちの学習への意欲が大きく高まる。
- ・自分の学びに責任を持てるようになる。

## IX 今後の目標

- 1学期 算数科の特質をいかした学び方を育てる授業展開を行う。自力学習の多様化
- 2学期以降 個別最適な学びの指導計画を立てる。